

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2021年8・9月合併号

NO. 332

TOPICS

夏の暑さに思う

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 監事 山田 悦朗

MESSAGE P4

CBT方式で3次試験を再開、申込受付中

ATTENTION P6

「PRアワードグランプリ 2021」エントリー受付中!

ATTENTION P8

「PRプランナー3次試験対策講座」開講

ATTENTION P9

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー

5F 電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <https://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F

電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人: 畔柳 一典

8・9月合併号目次

9月～10月のスケジュール	-----	2
MESSAGE(メッセージ) 夏の暑さに思う	-----	4
ATTENTION(お知らせ) CBT方式で3次試験を再開、申込受付中	-----	6
// 「PRアワードグランプリ 2021」エントリー受付中!	-----	8
// 「PRプランナー3次試験対策講座」開講	-----	9
REPORT(講演レポート) 第214回定例研究会(正会員・個人会員会員限定)	-----	11
協会掲載記事 PRSJ in Media	-----	12

9月～10月スケジュール

【オンライン】 PRアワードグランプリ トークセッション	日 時 : 9月6日(月) 17:30～18:30 講 師 : (株)電通パブリックリレーションズ執行役員 井口 理氏 (株)井之上パブリックリレーションズ 執行役員 高野 祐樹氏
【オンライン】 関西部会主催 オンライン定例会	日 時 : 9月15日(水)15時～16時30分(テイスティングを含む) テーマ : サントリー白州蒸溜所見学会
【オンライン】 第216回定例研究会	日 時 : 9月17日(金)14:00～15:20 テーマ : 躍進する「ビジネスインサイダージャパン」がめざすもの 講 師 : (株)メディアジーン ビジネスインサイダージャパン編集長/TECH 統括 伊藤 有氏
【オンライン】 第46回PRスキル研究会	日 時 : 9月17日(金)18:00～19:00 テーマ : 『広報の仕掛け人たち』紹介事例から学ぶリブランディング、新たなPRのかたち 講 師 : キャンドルウィック(株) シルベスタ 典子氏、横山 恭子氏 共同ピーアール(株) 千葉 朋子氏
【オンライン】 PRアワードグランプリ トークセッション	日 時 : 9月21日(火) 18:00～19:00 講 師 : (株)サニーサイドアップ 取締役CBO 松本理永氏 (株)刀 エグゼクティブ・ディレクター ストラテジック・コミュニケーション 田上 智子氏 (株)博報堂ケトル 代表取締役社長 共同 CEO 太田郁子氏
広報・PRチームリーダー講座(仮称)	日 時 : 10月開催予定
広報・PR入門Web講座(秋期)	日 時 : 10月開催予定

9月～10月の理事会・委員会・ 部会スケジュール

定例理事会	(9月度)	日 時	: 9月 9日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: オンライン開催	
	(10月度)	日 時	: 10月 7日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: オンライン開催	
教育委員会	(9月度)	日 時	: 9月 2日 (木)	13:30～14:30
		会 場	: オンライン開催	
	(10月度)	日 時	: 10月 18日 (月)	13:30～14:30
		会 場	: オンライン開催	
資格委員会	(9月度)	日 時	: 9月 16日 (木)	12:00～13:00
		会 場	: オンライン開催	
国際・交流委員会	(9月度)	日 時	: 9月 8日 (水)	16:00～17:00
		会 場	: オンライン開催	
広報委員会	(9月度)	日 時	: 9月 15日 (水)	16:00～17:00
		会 場	: オンライン開催	
顕彰委員会	(9月度)	日 時	: 9月 21日 (水)	14:30～15:30
		会 場	: オンライン開催	
企業部会幹事会	(9月度)	日 時	: 9月 1日 (水)	17:00～18:00
		会 場	: オンライン開催	
PR業部会幹事会	(9月度)	日 時	: 9月 16日 (火)	16:00～17:30
		会 場	: オンライン開催	

夏の暑さに思う

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

監事 山田 悦朗

最近夜、冷房しないと寝付けない。と言って、ずっと付けっぱなしだと体に悪いと思い、4時頃切れるように設定しておく、決まってそのころに目が覚める。窓を開けると、既にセミがうるさく鳴いているし、ひんやりした朝の空気も入ってこない。ウン十年前の子供のころは、寝るとき少々暑くても、明け方はひんやりしてぐっすり眠れたものだ。(早く目が覚めるのは歳のせい?) いつから巷はこんなに暑くなってしまったのか。

ご覧になった方も多いと思うが、8月10日の朝刊に気候変動の記事が出ていた。IPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)が9日に公表した報告書で、地球温暖化が手に負えなくなる状況に危険なほど近づいており、人類に責任があることは「疑う余地がない」と表明したのだ。具体的には、産業革命前と比べた世界の気温上昇が2021年から40年の間に1.5度に達する、それは2018年に同パネルの想定より10年ほど早い。また過去の上昇も2011年から20年までで、1.09度。異常な高温の発生確率は1.5度の上昇で現在の2倍ほどにもなるという。温暖化は人間活動の影響によることは疑いなく、抑えるためにはCO2の排出を実質ゼロにする必要がある、との指摘だ。

先日も線状降水帯による時季外れの大雨が九州、広島に降ったが、このところ各地で毎年のように、100年に一度の、過去に例をみない、記録的な、という形容詞が付く豪雨、それによる洪水や土砂崩れが発生している。「命を守る行動をとってください!」とTVでアナウンサーが叫ぶ姿も頻繁に見るようになった。海外でも、シチリア島での48.8℃、ギリシャ、トルコや米国などでの熱波による山火事、中国での大洪水、グリーンランドで氷が今までにないスピードで溶けている、など異常気象やそれによってもたらされたであろう現象、被害が報告されている。昔は地震が一番怖かった。今は、人間活動による温暖化が原因の異常気象が一番怖いといってもいいかもしれない。

こんな話をしていると、1970年代に、ローマ・クラブが発表した「成長の限界」という警告の報告を思い出す。改めて調べてみると同報告は、1972年に国際的な研究・提言機関ローマ・クラブが発表したもので、将来も現在(1972年)のような人口の爆発的増加と経済成長が続いた場合には、人口、食糧生産、資源、環境などの問題を総合的に検討すると、100年以内に地球の成長は限界に達するというのがその内容。この将来予測は同年のストックホルム会議(国連人間環境会議)へ向けて、地球環境問題への取組みの重要性を広く知らせる啓発的な役割を果たした。(私は1977年に卒業したが、卒論に「成長の限界」の内容を参考にしたせいも、化石燃料の枯渇、というところに反応して、当時(で、今も)全盛だった鉄鋼会社や自動車会社ではなく、コンピュータ会社を就職先に選んだのだ。)

「成長の限界」を調べていると、農水省のサイトに1972年の「成長の限界」から、2015年9月の国連サミットで採択された、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」に至るまでの経緯が解説してあるのを見。人間が、地球環境のことを考え始めてからたかだか50年なのだ。

SDGsとは：農林水産省(maff.go.jp)

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/about_sdgs.html

1972年「成長の限界」への気づき

1980年代「持続可能性」の概念が登場
1992年「地球サミット（リオサミット）」
～「サステナビリティ（持続可能性）」の概念が世界に普及、歴史的転換点に
1997年「京都議定書」～地球温暖化への世界的な協調の取組
2000年「MDGs」～開発途上国の課題解決を目指す
2015年「SDGs」～「誰ひとり取り残さない」世界の実現を目指して

皆さんの会社でもサステナビリティ、SDGsへの取り組みを、公式Webサイトや統合報告書で公表しておられると思う。今はIR的な、または金融的な要請（その背後には以上のような社会的要請があるのだが）により、必要に迫られて、という側面も強いように思われる。SDGsが提唱されるに至った長い経緯を鑑みるに、人類生存のためには企業は本業で、本気に環境問題に取り組むことが必要であり、個人的にもできることからやる、ということが今を生きる私たちの責務なのではないか、と汗をかきかき、改めて思う。

〔追記〕

『成長の限界』より前の1960年代後半、「宇宙船地球号」という言葉が使われはじめた。月面に着陸した人工衛星から送られてきた写真によって見た地球は、文字どおり宇宙空間に浮ぶ宇宙船で、人類はあたかもその宇宙船内で宇宙飛行士が有限な資源を利用して飛行を続け、生存をはかっているようなものである、というもの。これも当時としては新鮮なアイデアだった。



〔無料写真〕1972年12月7日にアポロ17号から撮影・加工された地球 - パブリックドメイン
Q: 著作権フリー画像素材集 (publicdomainq.net)

PRプランナー資格認定制度／検定試験

CBT方式で3次試験を再開。申込受付中

—試験日は、11月19日(金)～11月21日(日)—

資格委員会

PRプランナー資格認定検定試験は、集合型の試験方式を見直し、全国のテストセンターに設置されたパソコンを使う分散型の方式（CBT方式*）で、2021年2月に1次試験、5月に2次試験を実施し、1次試験では926人、2次試験を463人と、ともにこれまでを上回る人数が受験しました。

3次試験についても検討を重ねた結果、これまでのPCを使用した記述式の試験から、1次・2次試験と同様に、全国のCBTテストセンターで3日間に分けて実施する分散型の試験方式に変更になります。

試験申込は9月7日（火）から10月8日（金）までとなり、試験日はこれまで1日のみの開催でしたが、11月19日（金）から11月21日（日）までの3日間の中から選択できるようになりました。ただしこの試験期間に受験できるのは、ひとり1回までとなります。なお、試験問題は試験日毎に異なります。

試験内容は、これまでと同様に、ニュースリリースの作成と広報・PR計画の立案の2つの課題となりますが、試験時間がこれまでの3時間から2時間へと変更になります。

回答の際はこれまでと同様にPCを使用しますが、今回の試験からマイクロソフトオフィスのアプリケーション（ワード、エクセル、パワーポイント）は使用せず、回答欄に設けられたテキストボックスに、それぞれの出題の回答を入力する形式に変更となります。詳細については、PRプランナー資格制度Webサイトに参考問題と参考回答例がありますので、そちらをご参照いただければ幸いです。

3次試験は広報・PRに関する実践技能を問う内容となり、これまでに5,122名が受験し、2,911名が合格しております。

ぜひ受験をご検討いただければ幸いです。

- 全国280カ所のテストセンターに設置されたPCを使って受験していただきます。
- 16日間の試験期間で、ご都合のよい日時・会場を選択できます。
- 受験料のお支払いはクレジットカード払い、コンビニ払い、Pay-easy（ネットバンキング）からお選びください。（手数料は無料です）
- 試験会場については、首都圏と大都市圏のテストセンターで一定量の座席を確保しているほか、全国約280カ所のテストセンターでも受験が可能となりますが、各会場とも、座席数に限りがあり、ご希望の日時・会場が先約で埋まってしまう場合もありますので、お早めにお申込みください。

【3次試験 お申込みから合否通知までの流れ】



【PRプランナー資格認定制度／検定制度 第29回3次試験 実施概要】

試験期間	2021年11月19日(金) 15:00~17:00 2021年11月20日(土) 10:30~12:30 2021年11月21日(日) 14:00~16:00 ※受験者はいずれかの日程を選択
仮申込み期間	2021年9月7日(火) 正午~10月8日(金) 23:59まで ※PRプランナー資格制度 Web サイトでのお申込みとなります。(本申込に必要な受験コードを取得)
本申込み期間	2021年9月7日(火) 正午~10月15日(金) 23:59まで ※CBTS Web サイトにユーザー登録後、同サイトでの本申込みとなります。(受験日時・会場選択、受験料のお支払い)
合否発表	2022年1月12日(水) 正午
試験内容	「広報・PRに関する実践技能」 課題A：ニュースリリースの作成 課題B：広報・PR計画の立案作成 の2問 ※課題Bは「コーポレート課題」もしくは「マーケティング課題」から1つ選択していただきます。
試験時間	120分
参考問題・参考解答例	3次試験の参考問題と参考解答例 https://pr-shikaku.prsj.or.jp/reference/sample_3rd_exam ※システムの仕様上、解答欄で可能になるのは文章(テキスト)入力のみになります。文字修飾(太字・カラーなど)、行揃え(中央寄せなど)、見出し設定(インデントなど)、図形の挿入、表組みの機能はありません。また、問題文・解答欄の中でコピー&ペーストする操作もできませんので、受験準備にあたっては十分にご注意ください。

試験スケジュールにつきましては、変更する可能性もございますので、下記のPRプランナー資格制度 Web サイトで適宜ご確認くださいませよう、お願い申し上げます。

PRプランナー資格制度 Web サイト：<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>



「PRアワードグランプリ 2021」エントリー受付中！

10月26日(火)17:00が締め切り(必着)です

顕彰委員会

9月1日から「PRアワードグランプリ 2021」のエントリー受付を開始しております。最終締め切りは10月26日(火)17:00(必着)です。皆さまからのエントリー、心よりお待ちしております。

「PRアワードグランプリ 2021」募集概要

- ・後援 : 経済産業省、日本広報学会、公益社団法人 日本広報協会
- ・エントリー案件 : 最近1年間に成果があがった、企業・団体が実施または参加したコミュニケーション活動。(※過去にエントリーした案件であっても活動継続中であれば再度エントリー可)
- ・応募カテゴリー :
 - コーポレート・コミュニケーション
 - マーケティング・コミュニケーション
 - ソーシャルグッド
 - その他
- ・エントリー方法 : 「PRアワードグランプリ 2021」のエントリーフォームに必要事項を入力し、作成した既定のエントリーシートを添付して登録。
- ・エントリー料
 - 早期エントリー : 11,000円(税込) / 1エントリー(振込手数料別途)
※2021年9月30日(木)までの受付記録のあるもの
 - 最終エントリー : 22,000円(税込) / 1エントリー(振込手数料別途)
※2021年10月1日(金)～10月26日(火)17:00必着
- ・審査方法

審査員長のもと、9名の審査員で審査団を構成。審査員全員が議論形式の審査会を開催。カテゴリー横断で全エントリーに対し厳正な審査を行い、「グランプリ」「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」の各賞を決定いたします。なお、顕彰委員会及び審査団の協議により、上記の賞以外の表彰を行う場合もございます。

 1. 一次審査(11月上旬予定)
審査団が全エントリーを審査し、上位エントリー(10組程度)を決定いたします。
 2. グランプリ審査(11月下旬予定)
一次審査で決定した上位エントリー(10組程度)によるエントリー内容の説明(1組10分程度)と審査員からの質疑応答のセッションを実施し、全てのセッション終了後、「グランプリ」、「ゴールド」、「シルバー」各賞を決定いたします。審査終了後、審査結果をご担当者にご連絡いたします。
 3. 表彰式について
受賞エントリー(シルバー以上)については、12月14日(火)に実施される表彰式でプレゼンテーションしていただきます。
日時 : 2021年12月14日(火)12:30～16:00(予定)
※新型コロナウイルスの感染状況により、オンライン配信などの形式で公開を検討中
※表彰式の詳細は、11月下旬にご担当者にごメールでご案内いたします
※参考 協会WEBサイト : <https://prsj.or.jp/pr-award/>

(事務局・依田)

広報・PR実務講座 2021

「PRプランナー3次試験対策講座」を開講 ～CBT試験に対応し新講座を加え9月下旬からオンライン開講～

教育委員会

協会では、PRプランナー3次試験の受験者を主な対象とする「PRプランナー3次試験対策講座」（以下、「3次対策講座」）を新3次試験の方式にあわせ改訂し、オンライン講座として9月下旬から開講いたします。

人気の高まりとともに受験者も増加の傾向をみせていた「PRプランナー3次試験」は、2020年初頭から急速に社会問題化した新型コロナウイルスの感染問題のおありを受け、2020年1月の第25回試験を最後にこの1年半以上にわたり実施が見合わせられてきました。協会では新型コロナウイルス問題への対処としてPRプランナー試験のCBT(Computer Based Testing)化に着手しており、今年前半からはCBT方式の導入により1次試験、2次試験を再開しています。同時に3次試験のCBT化を推進しており、この11月下旬にはこの方式による「第29回PRプランナー3次試験」（第26回～第28回は中止）の実施が決定されました。3次試験の再開にあわせ、PRプランナー資格の取得をめざす広報・PR実務者を支援するため、「3次対策講座」を開講する運びとなりました。

今回開講する「3次対策講座」は新型コロナウイルスの感染防止を徹底するため、従来実施していた会場開催を行わずオンライン講座として開講します（今後の会場開催については未定）。

3次試験のCBT化にあわせ講座内容も2020年まで開講されていたものから改訂し、試験方式の解説と企画書作成の基本を学ぶ新講座「広報・PR計画立案の基本」を新たに追加しました。さらに「ニュースリリースの作成」、「広報・PR計画の立案作成（コーポレート課題）」、「広報・PR計画の立案作成（マーケティング課題）」の3課題を学ぶ講座はそれぞれ2回にわたる講義と演習で構成され、CBT化された試験の対策が指導内容に盛り込まれるなど、受講者は受験対策を効果的に進めることが可能です。

また、より柔軟に受講者のニーズに対応するため、コース別受講制を導入します（次ページ図参照）。受講者はニュースリリース課題に加え、「広報・PR計画の立案作成」ではコーポレート課題及びマーケティング課題の双方を学ぶ「総合コース」、あるいはニュースリリース課題にあわせてコーポレート課題もしくはマーケティング課題のいずれかを選択し、コースとして受講することが可能となります。

なお、オンデマンド方式のオンライン講座として開講するため、受講者は時と場所に制約されない、フレキシブルな受講が可能です。国内のみならず海外に居住のみなさま、また日々の仕事に追われるご多忙なみなさまも、パソコンやスマホなど手元の通信端末を利用して、都合のよい時間に、また試験対策に必要な内容を理解できるまで、何度でも繰り返し履修することができます。

この「3次対策講座」の受講を希望されるみなさまは、下記URLの講座ページをご参照のうえお申込みいただけます。会員のみなさまは、会員専用マイページからお申込みください。

http://event.prsj.or.jp/3rd_examination （9月中旬公開予定）

■コース構成

総合コース	新3次試験の概要と計画作成の基本 <講義>	ニュースリリースの作成 <講義>	広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題) <講義>	広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題) <講義>
		ニュースリリースの作成 <演習>	広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題) <演習>	広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題) <演習>
コーポレート課題コース	新3次試験の概要と計画作成の基本 <講義>	ニュースリリースの作成 <講義>	広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題) <講義>	
		ニュースリリースの作成 <演習>	広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題) <演習>	
マーケティング課題コース	新3次試験の概要と計画作成の基本 <講義>	ニュースリリースの作成 <講義>		広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題) <講義>
		ニュースリリースの作成 <演習>		広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題) <演習>

■各講座の講師

講座	講座概要	講師
新3次試験の概要と計画作成の基本 (1回)	CBT化された3次試験の新方式についても解説するとともに、企画書の目的や役割、基本的な構成など計画作成の基本を学ぶ。	横田和明氏 (株)井之上パブリックリレーションズ
ニュースリリースの作成 (2回)	課題に基づくニュースリリースの作成に必要な知識、スキルを講義と演習で学ぶ。	青田浩治氏 (株)電通パブリックリレーションズ
広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題) (2回)	コーポレート課題に基づく広報・PR計画の企画立案に必要な知識、スキルを講義と演習を通じて習得する。	高野祐樹氏 (株)井之上パブリックリレーションズ
広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題) (2回)	マーケティング課題に基づく広報・PR計画の企画立案に必要な知識、スキルを講義と演習を通じて習得する。	野村康史郎氏 (株)オズマピーアール

■受講料 (単位：円、税込)

コース	会員社員(※)	PRプランナー 有資格者(准・補)	一般
総合コース	35,200	40,700	44,000
コーポレート課題コース	29,700	33,000	36,300
マーケティング課題コース	29,700	33,000	36,300

※日本パブリックリレーションズ協会の「会員社員」の料金は、正会員としてご入会いただいている企業・団体にお勤めの方、もしくは個人会員・准会員としてご入会いただいている方が対象となります。

(事務局 真部)

正会員・個人会員限定

第214回定例研究会

**働く女性に寄り添う「OTEKOMACHI」と
「発言小町」がめざすもの****～読者を集める女性向け情報サイト
その魅力の原点を探る～****講 師:読売新聞社
「OTEKOMACHI」「発言小町」編集長
小坂佳子氏**

第214回定例研究会（7月度）は、7月2日（金）、オンラインで開催しました。講師は読売新聞社「OTEKOMACHI」「発言小町」編集長 小坂佳子氏。テーマは「働く女性に寄り添う「OTEKOMACHI」と「発言小町」がめざすもの～読者を集める女性向け情報サイト その魅力の原点を探る～」でした。

<講師略歴>

1993年、明治大学卒業後、読売新聞社に入社。秋田支局、立川支局などを経て2000年から生活部に在籍し、子育てをしながら食や保育、働き方などについて幅広く執筆してきた。秋田支局長を経て、18年7月から現職の「大手小町」と「発言小町」の編集長に就任している。

PRSJ in Media

● 8月1日(日) 『月刊広報会議』(宣伝会議) 9月号

『月刊広報会議』9月号における当協会の連載コラムで、当協会が6月3日に開催した「第10回通常総会」ならびに「特別講演」について記事掲載されました。

記事ではまず通常総会の議案について紹介され、また「PRパーソンからパブリックリレーションズ・プロフェッショナルへ」を基本方針として令和3年度から協会が取り組む中期計画に関する説明が行われたことが掲載されています。

特別講演については、一橋大学大学院の阿久津聡教授が登壇し、パブリックリレーションズ・プロフェッショナルに期待される能力として「ナラティブ・アプローチ力」、「Key Opinion Formerとしてのファシリテーション力・構想力」、「Social Dynamics のマネジメント力」の3つのポイントが示されたことを伝えています。

● 9月1日(水) 「P『HALF TIME Magazine』(HALF TIME 株式会社)

スポーツ関連ニュースを扱うWebメディア「HALF TIME Magazine」にて、当協会が「PRアワードグランプリ」のエントリー受付を開始したことが報じられました。

記事では、「PRアワードグランプリ」は2001年に創設され毎年優れた広報・PR活動を選出し表彰していることのほか、9名の審査員に行われる審査の4つの評価基準、グランプリ、ゴールドなど表彰される各賞、社会課題に一石を投げ解決する創意工夫が凝らされた活動を表彰するという本アワードの趣旨などが掲載されました。

また、スポーツ関係では、過去に東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の戦略広報活動の入賞、西武ライオンズのプロジェクトがグランプリを獲得したことにも触れ、あわせて今年度の応募スケジュールも紹介されています。

<記事 URL> <https://halftime-media.com/category/news/>

[記事協力：株式会社内外切抜通信社]

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいとおもいますので、
よろしく願い致します。

広報員会

Eメール mail@prsj.or.jp

F A X 03-5413-2147

※ 禁転載